

## 第6章 今後の展望



## 今後の展望

平成 25 年度、ツインクルプログラムは実施 2 年目に入り、派遣、受け入れとも順調に活動を軌道に乗せることに成功した。さらに、今年度は当初計画していた ASEAN 連携大学よりなるツインクルコンソーシアムメンバーが一堂に会して総括を行うことができ、まずまずの滑り出しであると考えている。また、MOA の締結も進んでおり、プログラム実施を通しての大学間連携強化は順調に進んでいる。さらにタイではチュラロンコン大学とキングモンクット工科大学の 2 大学を新たに加えプログラム実施体制を拡大した。

本年度は合計 76 名の派遣と 100 名の受け入れを行った。半期での実施であった昨年度に比較し、年間を通しての活動となり、プログラムの大幅な拡大が行えた。特に受け入れに関しては大幅な増員を行うことで、派遣前の教材、授業開発がスムーズになるとともに内容も深化し、現地での活動、および帰国後の修了発表会の内容も好評を博した。特に現地での反響が大きく、次回以降の実施を望む声が多く、多くの学校から寄せられるようになった。この実績をもとに今後さらに活動を拡大していきたい。

また、派遣・受け入れプログラムともトライアルコースに加え、1 か月間のショートコース、1 か月以上 6 か月以内のロングコースと、すべてのコースを実施するとともに、単位の認定を派遣学生及び受け入れ学生に対して行った。

学生派遣時の病気・けがなどに対する緊急体制の整備が進み、定常で予想される体調不良等による入院などは十分管理可能となった。一方で今年度はタイの政情不安により派遣中止を余儀なくされる事態となった。派遣自体はインドネシア連携校での振替が可能であり支障はなかったが、派遣中止基準など具体的な対応に関してさらに検討する余地があることが示された。このように様々な課題がプログラムの深化に伴い顕在化することからも、緊急体制に関しては全学体制のみならず海外連携校との協働体制での対応が必要であり、ツインクルプログラムの活動内容意義を十分に学内、海外連携大学および連携学校に浸透を図り、十分な危機管理体制のもと安全で効果的なプログラム運営に努めたいと考えている。

平成 26 年度は、長期交流の拡大をめざし、単位の認定に関して連携を深めたい。また、3 年後の自立化を視野に入れ、実施体制の改善、資金面での検討、学生負担でも実施可能な魅力的プログラムの在り方などについてさらに検討しつつプログラムを改善してゆく所存である。



文部科学省 平成 24 年度 大学の世界展開力強化事業  
千葉大学 「ツイン型学生派遣プログラム (ツインクル)」  
《 平成 25 年度 ツインクル活動報告書 》

---

平成 26 年 (2014) 年 5 月 11 日発行

代表者 山野芳昭  
〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33  
千葉大学教育学部 ツインクルオフィス  
TEL 043-290-2513

---